



OKAYA

岡谷ロータリークラブ

- 会長／竹村 一幸
- 副会長／小野 仁 中畑 隆一
- 幹事／小口 泰史
- 会報・雑誌・広報委員長／坂井 忠彦

- 事務所／岡谷市中央町 1-4-12 ホテル岡谷 3F
Tel/0266-22-6939 ・ Fax/0266-23-6939 ・ URL: <http://okayarc.org> ・ E-mail: okayarc@amber.plala.or.jp
- 例会／毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

第 2334 回例会 2007 年（平成 19 年）4 月 3 日（火）

- | | | | |
|-----|--|----------|--------------|
| 司 | 会：山岡正邦 | 唱 | 和：四つのテスト |
| 点 | 鐘：竹村一幸 | ラッキーNo.： | No. 23 山岸邦太郎 |
| 斉 | 唱：君が代、奉仕の理想 | | |
| 表 | 彰：ベネファクター・尾関秀雄、竹村一幸 | | |
| 皆 勤 | 祝：植野忠道 32 年、大橋正明 28 年、笠原久平 24 年
小口泰史 11 年、太田博久 1 年、佐藤有司 1 年 | | |
| 誕 生 | 祝：藤森睦美、笠原久平、山岡晴男、呉本公太、宮沢由己 | | |



誕生祝

会長挨拶

漸く桜の季節がやって来ました。例年より 1 週間～10 日位早く咲きそうです。日本人が愛してやまない桜ですが、日本の桜のルーツはネパールではないかと言われております。遺伝子的にもこの可能性が高いようです。

日本では国民的な花ですが、ネパールでは関心が今ひとつで、桜の木を薪にしてくべたり、建材用に切り倒しているとの事、美感の感覚も国により大きく異なるものです。

“桜守”と呼ばれる人達が在りますが、岐阜県の御母衣ダムで水没しかかった樹齢 400 年の桜の老木を移植して救った水上勉の小説「桜守」のモデルになった、笹部新太郎は桜の通り抜けで知られる大阪造幣局や奈良の吉野山などの桜の管理にあたりました。大地主の次男に生まれ、その資産を桜の研究に全部つぎ込んで「笹部桜」の新種を改良しました。

現在は生家の跡地は里山公園(桜の園)として地域に開放され 280 名の地元の“桜守の会”の人達が、桜を守るだけでなく周囲の環境や生態系を守っているそうです。

日本には各地にこのような桜を守る人たちがいます。地元の小井川区でも有志の人が横河川の土手の桜を管理しており、素晴らしい文化が根付いております。

会長報告

- ・ 市政 71 周年記念式典が 4/1 に行われ出席してきました。当クラブが表彰されたのでご報告します。

- ・過日幹事より報告致しましたが、第 2600 地区規約改正案が投票総数 96 票(1 クラブ棄権)、有効票 86 票、賛成 75 票、反対 11 票、白票 10 票で可決されました。次年度より新しい規約で運営がなされます。

幹事報告

例会変更 辰野 RC=4/18(水)夜間例会に変更。

ビジター受付は 18 日 11:30~12:30 クラブ事務所にて。

5/2(水)特別休日。ビジター受付はありません。

松本西南 RC=4/10 (火)早朝例会に変更。

ビジター受付は 10 日 12:00~13:00 まで例会場にて。

委員会報告

社会奉仕委員会 次週例会は清掃例会を行います。清掃できる服装で、軍手をご持参下さい。通常通り例会を行い、1 時頃から岡谷駅周辺の清掃を行います。よろしくお願ひします。

職業奉仕委員会 ご案内を出しましたが、5/8(火)8:30 よりホテル岡谷さんに検診車が来て健康診断を行います。奥様も同額で受診出来ますので、多くの方に受診して頂きます様、ご案内致します。

ガバナー補佐事務局 3/4 に続いて 4/15 (日) IM で諏訪湖清掃を行います。諏訪 RC の創立 50 周年に協賛する意味も含め、諏訪グループ全体で IM として行います。ボーイスカウト等の協力も得て行います。是非とも多くの方のご参加、ご協力をお願いします。



卓話 「外来魚と諏訪湖」

佐藤 有司 会員

現在、日本中で騒がれている淡水魚のギャングと呼ばれているブラックバス。我郷土の諏訪湖においても、「わかさぎ」の大敵として悪者扱いされている外来魚です。

はじめに日本にいる代表的な外来魚(有害)を説明しましょう。

もっとも有名なブラックバス

- ・オオクチバス(スズキ目 サンフィッシュ科 淡水魚)

特に止水域を好み、身体の特徴は名の通り大きな口を持ち、尾の先が黒い。「待ち伏せ型ハンター」で成魚は 30~70 CM で、産卵は 5~7 月頃行いオスは卵と稚魚を 1 ヶ月間採食せず守り続ける家族を愛する魚です。日本に来たのは、1925 年(大正 14 年)実業家・赤星鉄馬(大正銀行頭取)アメリカ留学中にバスと出会い、釣りや食用にと苦勞して日本に持ち込み、箱根の芦ノ湖に放流された。バスは魚食性が強いので生態系への影響を考え、他の水域と隔絶されている芦ノ湖に政府の許可の下に放流されました。1970 年代に無許可での放流を禁止し、諏訪湖では昭和 45 年に初確認されています。

- ・コクチバス

オオクチバスが生息できない寒冷地（冷水）や溪流（流水）・山上湖にも生息できる新種。体長はオオクチバスと同じ位ですが、縦縞が特徴で魚食性はオオクチバスより強い。長野県では平成3年に野尻湖で初確認され、水産関係者と行政を慌てさせました。この魚は誰が持ち込んだのかは不明。

- ・ブルーギル

特徴は熱帯魚のような派手な色を持ち、体長は成魚でも20CM位です。ギルとは「えら」という意味で、水生昆虫、甲殻類、貝類、小魚、魚卵、食べる物が無い時は水草までも食べてしまう「やっかい者」。1960年（昭和35年）に現天皇、当時皇太子の時、シカゴ市長から18匹プレゼントされ持ち帰られた。バスと同様に食用と釣り用として、伊東市の一碧湖に放流されました。肉の味は良いのですが、身が薄く、骨が多いので食用としては扱いにくい。諏訪湖では昭和52年に初確認されています。

最初の放流は述べてきたとおり、他の水域と隔絶されている湖に放流されてきたのですが、現在では日本中いない所は無いと言う位、全国に生息しています。

なぜ日本中に爆発的に分布が拡大されたか、一説には「釣具業界が絡んだ組織ぐるみの密放流」とも囁かれています？。組織ぐるみではないとしても、一部釣り人のエゴによる密放流、また生態系の安定を図って行った「ワンセット放流」の失敗もあるでしょう。

「ワンセット放流」とは、「ハブとマングース」のように互いに攻撃しあい減少し生態系は安定すると考えたのですが、これは人間の浅はかな考えでした。当初、バスとブルーギルをワンセットで放流すれば、バスはギルを食べ、ギルはバスの卵を食べ共に減少すると考えていたのですが、バスはギルを食べず在来魚のみを食べ、ギルもまた在来魚を主体にし、なければバスも食べてしまったのです。おそらくギルはバスの20倍は生息しているとも言われています。

このように分布が拡大されたのを受け、2005年の6月に「外来生物法」ができこのような外来魚の輸入、飼育、運搬、移植を禁止されました。

現在、合法的に放流が認められているのは、芦ノ湖、河口湖、山中湖、西湖の4湖のみとなっています。

さて諏訪湖ではどのようになっているのでしょうか。諏訪湖の漁業と言えば「わかさぎ」ですね、この「わかさぎ」も諏訪湖にもともと生息していた在来魚ではなく放流された魚です。この卵を各湖に売ることが大きな収入となっています。しかし近年、成魚の減少により卵の採集が大幅に減少しました。この一番の原因をブラックバスとして駆除してきています。昨年より諏訪湖では、「わかさぎ」の保護ということで、冬の風物詩である「わかさぎ釣り」も規制し禁漁期間もつくりました。

どうして諏訪湖にバスやギルが増えたのでしょうか？実は、ある時期を境に爆発

的に増えたということです。それは平成11年から12年にかけてであります。11年までのデータでは、確認されたバスの数は70匹前後でした。ところが12年になると1万匹と確認されたのです。漁協側はバス釣りの人間が密放流したのが原因と決め付け、事実上のバス釣りの禁止となる「リール釣り禁止」を行いました。

しかし、この11年の7月に「わかさぎ」の近親交配を防ぐために、琵琶湖産の生きたままの「わかさぎ」150kgを諏訪湖に放流しているのです。当時、生きたままの放流に関しては「バス混入のリスク」があったことを承知で行なった、ということです。密放流のみで100倍以上も増えることは考えにくいと思いますか？

「バス害魚論」本当にバスだけが悪いのか？諏訪湖においても、他の湖でも同じような状況ですが、「わかさぎ」や本来いた「在来魚」の減少はバスだけが原因なのでしょうか？事実バスの魚食性は始めに述べているように実際食べていることは否定できませんが、「魚食性はコイやギル、マスの方が強い」ということ。「人間の生活排水による水質汚濁、護岸工事に伴う水棲植物の減少」も大きな要因になっているのではないのでしょうか。

実際「わかさぎ」の減少で困っている木崎湖では「キザキマス」「ヒメマス」に白樺湖は「ニジマス」の放流によって食べられている。また、水質汚濁により「わかさぎ」の生存率を高める動物プランクトンの減少という報告もあります。

「在来魚」の減少についても「ニッポンバラタナゴ」の場合は水質汚濁により産卵場所となる二枚貝が生息出来なくなったことや、同じ仲間の外来魚「タイリクバラタナゴ」との間の雑種化していることがあげられます。「メダカ」にしても「カダヤシ」との雑種化（「カダヤシ」はマラリア蚊の撲滅のために放流された）しているようです。

こうして考えてくると、確かにブラックバスはこの国には棲んではいけない魚かもしれないかもしれません。駆除されてもしかたがないのかもしれないかもしれません。しかし実際に完全に駆除したとしても、期待する効果が上がるのでしょうか。

我々にモラルや、自然環境を大切にする気持ちがあったならば、ブラックバスは「悪役」になっていたのでしょうか、ちょっと可哀相ですよね。

ニコニコボックス

佐藤有司 本日卓話をさせて頂く事になりました。会員皆様の貴重なお時間を私如きの話にお付き合いして頂く事に感謝申し上げます。

太田博久・大橋正明・小口泰史・小野 仁・河西 洋・高木昭好・竹村一幸・藤森睦美

矢島 進・矢島 實 佐藤有司さん、本日の卓話を楽しみにしています。

今井 紅・植野忠道・牛山幸一・大橋正明・小口雅弘・小口泰史・尾関秀雄・小松

正二・小松洋司・坂井忠彦・塚田昌滋・濱 透・浜俊弘・林 裕彦・林 靖高・平沢清文・宮沢由己・矢崎宏明・山岡正邦・山岸邦太郎・山崎典夫 山岡晴男さん、岡谷市消防団長ご就任おめでとうございます。また、矢島 進さん、分団長ご就任、佐藤有司さん副分団長ご就任おめでとうございます。

林 裕彦 2年間消防団分団長として職務を全うする事が出来ました。誠にありがとうございます。

宮坂 伸 新入社員の新人教育には時間がかかりますが、楽しみたいと思います。それから早退しますがすみません。

出席報告

会員数50名、出席者40名、出席率80.00%、前々回訂正82.00%

2006-2007年度 RI テーマ

率先しよう

LEAD THE WAY

